



LUCKY

2020.2

第50期 報告書

2019年3月1日から2020年2月29日

LUCKY

北雄ラッキー株式会社

JASDAQ:2747

株主の皆様へ

ごあいさつ

北雄ラッキー株式会社
代表取締役社長

桐生 宇優



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は創業以来、一貫して地域のお客様に愛されるお店づくりをめざし、皆様の食卓をよりおいしく、より豊かに、より健康にという理念のもと今日まで歩んでまいりました。これはひとえにお客様をはじめとして、株主の皆様、お取引先様の暖かいご支援があったからに他なりません。改めて深く感謝申し上げます。

第50期（2019年3月1日～2020年2月29日）におきましては、新天皇のご即位とそれに伴う令和への改元など祝賀ムードの冷めやらぬうち、消費税増税による景気の後退が始まり、年が明けると新型コロナウイルス問題の発生によりインバウンド消費の大幅減少、感染拡大による社会的影響が深刻化するなど、日本だけではなく世界の人々の暮らしや経済が困窮するような出来事が起こっております。

小売業を取り巻く環境におきましても、増税後の消費停滞などにより厳しい状況となり、キャッシュレス・ポイント還元事業の実施に伴うキャッシュレス対応や業態間競争の激化などの影響を受けていることで、当期後半は大変厳しい流れでありました。翌期に関してもこの流れは継続することに加えて、新型コロナウイル

スの影響で、本来予定されているイベントや経済活動が停滞する状況が想定されますが、当社は「研ぎ澄まされた商売」をすることで対処していかねばなりません。環境が劇的に変化していく中、少子高齢化、世帯人数の減少などに伴うマーケットの変化にも対応していかねばなりません。今後も変化のスピードはますます加速していきます。常に、アンテナを高くして取組んでいかねばならないと考えます。

また、技術革新も急速に進み、2020年4月から5Gが実際にマーケットの中で動き始めます。AI技術の進歩も今まで以上のスピードで動いております。SNSを中心とした情報にも気を配っていかねばならないマーケットになってきていることも確かです。

新型コロナウイルスの問題で状況も刻々と変化しており今後も予断を許さない状態にあり、我々としては、現在の方針を確実に進めて強い経営体制を築いていくということが重要になってまいります。

これからも時代や社会の変化にいち早く対応し、お客様のニーズにも的確にお応えできる企業を目指し、役職者一同が最大限の努力をしまいる所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

店舗網

(2020年2月末現在)

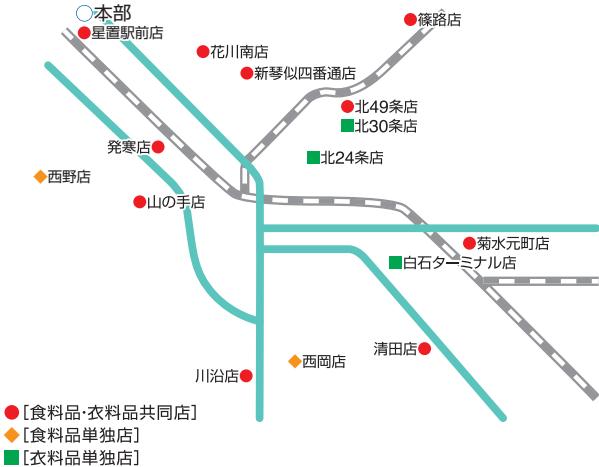
営業店舗合計 34店
 食料品・衣料品共同店 22店
 食料品単独店 5店
 衣料品単独店 7店

ラッキーマート幌向店
 栗山店
 長沼店
 手宮店・朝里店
 岩内店
 倶知安店
 千歳錦町店

シティわっかない店
 シティもんべつ店
 シティマートなかゆうべつ店
 シティえんがる店
 シティびほろ店
 シティあばしり店
 シティマートめまねべつ店
 シティマートくんねつべつ店
 札幌市

ひとみ店・美原店

札幌市近郊店舗分布



- [食料品・衣料品共同店]
- ◆ [食料品単独店]
- [衣料品単独店]
- 本部 〒006-0851 札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号 ☎011-558-7000
- デリカセンター 北海道小樽市銭函3丁目193-1 ☎0134-62-1717
- シティデリカセンター 北海道網走郡美幌町宇青山北53-3 ☎0152-75-2060
- 生鮮センター 札幌市中央区北12条西19丁目36-168 ☎011-623-0570
- 低温センター 札幌市中央区北12条西19丁目36-168 ☎011-643-4511
- 物流センター 北海道石狩市新港西3丁目700 ☎0133-75-8877

1971年4月、食品の小売および卸売を目的として株式会社オレンジチェーンを設立。1974年5月、商号を株式会社山の手ストアと改めチェーン展開を開始し、更なる店舗規模の拡大と集客部門の充実強化を図るため、1982年5月に札幌市内を中心に衣料品のチェーン展開を行っていた株式会社まるせんと合併。商号も現在の北雄ラッキー株式会社に変更しました。

その後、一層のチェーン展開を図り、石狩市、小樽市、道東の美幌町・遠軽町、道央圏の千歳市・栗山町・長沼町と規模を拡大し、更に道東地区のドミナント化を図るため網走市、紋別市へ進出、2005年10月には道北の稚内市、2008年9月には後志地方の岩内町、2011年11月には道南地区の函館市へと営業エリアを広げ、2020年2月末現在、全道各地に34店舗を展開しております。今後も、企業理念である「北雄ラッキーは、日本一質の高いスーパーマーケットをめざします。」を掲げ、お客様に感動を与えるサービスとともにニーズの変化を敏感に捉え、一步先を行くスーパーマーケットの創造に努力を続けてまいります。



「ナチュラルラッキー& テイスティラッキー」ラッキーらしさの商品コンセプト

お客様にとって最大の関心事である「食」の「健康と安心」の面において、当社が自信を持っておすすめしているのが「ナチュラルラッキー」の商品コンセプトです。お客様の健康増進や病気予防に役立つよう、有機野菜、特別栽培野菜、無添加商品などを展開しております。また、もうひとつの商品コンセプトである「テイスティラッキー」は、「おいしさ」と「品質」で、家族みんなが揃うお祝いの日やお誕生日などで、みんなに満足していただける商品です。

健康で安心な毎日の食生活のために。
NATURAL LUCKY **ナチュラルラッキー**



味研
無添加 手造り
焼肉のたれ



無添加加工
天然熟成塩紅さけ



新篠津産
特別栽培
玉ねぎ

おいしいものをどんどん食卓に。
TASTY LUCKY **テイスティラッキー**



北海道和
贅鮮北海道鮭荒ほくし



マルマメケ日
みかん



AOPバター使用
クロワッサン

「こどもPOPコンテスト」開催

当社設立30周年記念企画として開催し、今回で8回目となる「こどもPOPコンテスト」を実施いたしました。今年の応募作品も食材に対する素直で純粋な気持ちがとても良く伝わってくる力作揃いでありました。食材の持つ美味しさが際立ってくるような、こども目線で描かれた作品は、見ているだけで楽しくなります。当社といたしましては、この企画を最終的な目的である「社会貢献」、「地域貢献」につながるよう、取り組みの継続と積極的な広報活動に努めてまいります。



最優秀賞
「ハウス シチューミックスクリーム」



優秀賞 岩手県産「南産どり」

外国人技能実習生制度を導入



3期生の会議室での研修中の様子です。

当社では、2016年より外国人技能実習生制度を導入しており、2020年2月末時点では、36名のベトナム人を受け入れております。当社デリカセンターにおいて、惣菜やお弁当などの食料品の調理製造・品質管理の技術習得のため、働きながら学んでおります。この制度は、外国の方が日本の企業で働くことにより、日本の高い技術を身に付け、その国の発展を担う人材育成を目的としております。私たち日本人従業員にとっても、ベトナムの方々の仕事に対する姿勢や勤勉な態度が良い刺激となり、私たちの仕事の見直しにもなり、良い影響を与えております。



デリカセンターの調理・製造現場の様子です。

地域貢献活動の一環として



網走市市役所での協定締結式です。

当社は、2019年8月5日、当社の「シティあばしり店」が営業している北海道網走市と、「災害時における応急生活物資供給に関する協定」を締結いたしました。本協定は、地震や台風などの災害が発生した際に、市の要請に基づき避難所へ弁当・飲料水などの食料品やタオルなどの日用品を供給する内容であります。現在、当社は、網走市を含めた4つの道内自治体と防災協定を締結しております。

また、同年12月に、当社と北海道教育委員会の間で、子供たちの家庭教育や社会教育支援の目的で、「北海道家庭教育サポート企業制度」の協定も締結しております。



家庭教育サポート企業制度の協定締結の様子です。

■「ラッキー西岡店」の改装&「銭函宿舎」の新設

2019年4月に札幌市豊平区の「ラッキー西岡店」の改装を行いました。今回の改装では、「地域のお客様の食生活を応援し、お客様に支持されるお店を目指すこと」を改装コンセプトに、食生活を応援するお店として鮮度にこだわった生鮮品と出来立ての惣菜の提供を強化し、生活シーンに合わせた簡便・即食、時短調理で且つおいしい商品を幅広く取り揃えております。新たな施設面としては、多目的トイレの新設や無料でWi-Fiを利用できる休憩コーナーもご用意しており、お客様に楽しく快適なお買物をしていただけるように心がけております。また、2020年2月には、小樽市銭函に外国人技能実習生用の「銭函宿舎」を新設しており、働きながら日本の技術を習得する外国人技能実習生受け入れの環境整備にも取り組んでおります。



開店直後のお客様の行列です。



休憩コーナーでは無料でWi-Fiが利用できます。



銭函宿舎の外観です。



快適な実習生たちの談話室です。

北雄ラッキーは「今も未来も地域のお客様と共にあり続けたい」という願いのもとに、地球温暖化防止(二酸化炭素の削減)をはじめとする環境問題に積極的に取り組み、従業員一人ひとりが身近で出来ることから、着実に実践し積み重ねることで、地域のスーパーマーケットとして、地球や人にやさしい環境づくりに貢献してまいります。

■省エネ効果大! 冷凍ケースをスライド型に変更

ラッキー西岡店、千歳錦町店では、冷凍ケースにスライド式で開閉するフタを取り付けました。これにより、ケース内の冷気が保持され消費電力が減少し、また温度変化が減少することにより、ケース故障の防止、食品ロスの削減にもつながり、まさに環境対応型の冷凍ケースに生まれ変わりました。



スライド式開閉の冷凍ケースです。



スライド式開閉の冷凍ケースです。

■オープンケース棚下照明にもLEDを導入

ラッキー篠路店では、生鮮オープンケースにもLED照明を導入いたしました。天井の基本照明は早くからLED化しており、棚下照明ではその色合いや性能的に見合うものが無く検討を続けておりましたが、新たな棚下LED照明は発熱量が非常に少なく、照明と冷蔵ケースの消費電力がダブルで削減され、効果の高い省エネが実現されました。



精肉の色合いもとても良く出ています。



精肉棚下に並んでいるLED照明。

当期の概況

●営業の状況

当期におけるわが国経済は、比較的堅調な企業業績や雇用環境の改善を背景として、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしその一方で、米中貿易摩擦の長期化、中国経済の減速等の不確実な海外経済の動向に加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大による経済や市民生活に与える影響は不可避となり、景気の先行きは予断を許さない状況となっております。

スーパーマーケット業界におきましては、自然災害や消費税増税等の影響による消費マインドの低下が懸念される中、業種・業態の垣根を越えた競争の激化、消費者の少子高齢化や嗜好多様化への対応に加えて、人手不足の常態化とそれに伴う人件費上昇及び働き方改革への対応も求められており、引き続き厳しい経営環境となっております。

当社はこのような消費停滞・競争激化といった状況に対処するため、お客様が求める品質・価格等の多様化するニーズに対応する「商品力」、「現場力」及び「マーケティング力」の強化により、確固たる競争力の構築に取り組んでまいりました。

そして、「マーケティング力」強化の目標として、「ラッキーブランド」の確立を図り、お客様との信頼関係及び共感を強固に築き上げることにより、企業価値の向上に取り組んでまいりました。

「商品力」の強化として、「ラッキー100カテゴリー」を構築する6種類の商品MDに基づく商品開発により、顧客ニーズへの対応及び企業特性の差別化を図り、店舗においては、「お料理する人を応援する」売場提案により、豊かな食生活の実現に努めてまいりました。強化部門である惣菜部門及び

ベーカリー部門では、中食需要に対応した品揃えの強化により売上高確保に努め、衣料部門は販促方法や仕入基準の見直しによる収益力向上に取り組んでまいりました。

「現場力」の強化としては、店長主体による「個店経営」の実現を目的とするなかで、迅速かつ適切な現場判断のできる店長及び部門担当チーフの強化育成に引き続き取り組み、次のステップとして、パートナー社員の能力を最大に引き出すことのできる現場マネジメント力の強化に努めてまいりました。

店舗の業務管理においては、人時売上高の改善及び店舗商品在庫の適正化による作業効率の向上を図ることに加えて、ロス対策の徹底による荒利益率改善に努めたことにより、労働生産性は前年同期比0.7%増となりました。

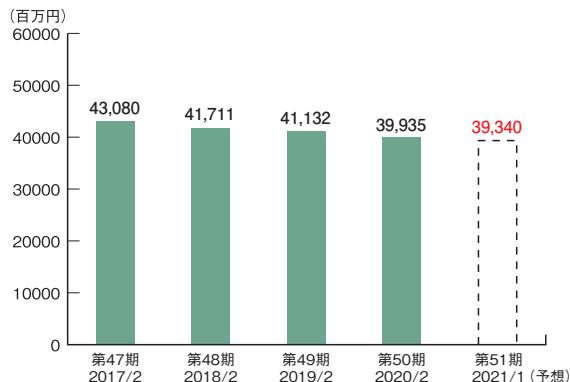
経費管理面におきましては、販売手数料の削減、電力契約の見直し等による水道光熱費の削減及び人件費の減少もあり、販売費及び一般管理費は前年同期比97.2%となり、前年同期に対して3億200万円の削減となりました。

設備投資につきましては、新設店舗及び閉鎖店舗は無く、改装店舗として2019年4月に「ラッキー西岡店」の改装を実施しております。

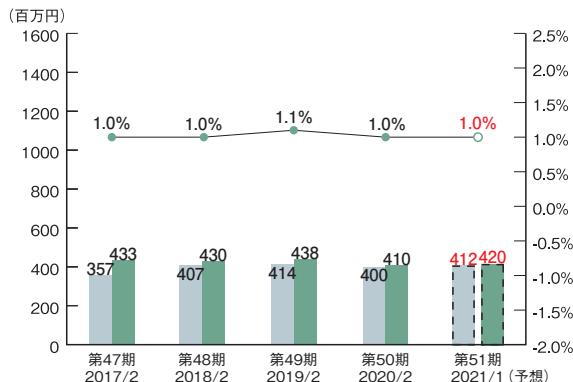
なお、2020年2月小樽市銭函に外国人技能実習生用の「銭函宿舍」を新設しております。

これらの結果、当期の売上高は399億35百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は4億円（同3.5%減）、経常利益は4億10百万円（同6.5%減）、当期純利益は前年の北海道胆振東部地震に伴う特別損失計上の反動により増益となり、2億19百万円（同102.4%増）となりました。

売上高の推移と予想（第47期～第50期実績と第51期予想）



営業利益の推移と予想（第47期～第50期実績と第51期予想）



経常利益の推移と予想（第47期～第50期実績と第51期予想）

●売上高対経常利益率

●次期の見通し

国内景気の状態につきましては、新型コロナウイルス感染症の急速な世界的拡大の影響により、足元で大幅に下押しされており、世界的同時株安の発生や外出規制実施による経済活動停滞の影響が懸念されるなど厳しい状況にあります。先行きにつきましては、感染症の収束時期の見通しが立たず、厳しい状況が続くと見込まれ、感染症が内外経済をさらに下振れさせるリスクに十分注意する必要があります。ある状況となっております。

スーパーマーケット業界におきましては、消費税増税の影響による個人消費の停滞に、新型コロナウイルス感染症問題も加わり生活防衛意識が一層強まる状況の中、慢性的な人手不足とそれに伴う人件費高騰への対応も大きな課題となっております。また、同業種・異業種を問わない業務提携、収益力や効率性を兼ね備えた新業態の開発、ネット通販と宅配事業の連携などの業界再編により、市場シェアの争奪が一層激化しており、厳しい経営環境が続くことが予想されます。

このような厳しい環境の中、当社は「商品力」、「現場力」、「マーケティング力」の強化に最大限傾注することを営業方針として、品質・価格等の多様化する顧客ニーズに対応してまいります。

重点課題としての人手不足及び人件費高騰に対しては、作業スケジュールの精度向上による作業効率の改善と人時売上高目標の数値設定により一層の業務改善に取組み、労働生産性の向上及びコスト削減に努めてまいります。

当社におきましては、お客様にとって価値がある商品を

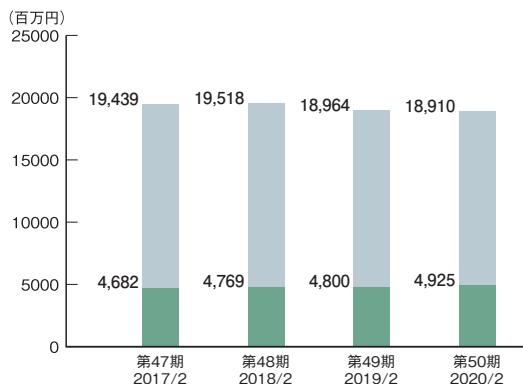
提供することにより、当社の商品や接客・サービスに対するイメージを全てのお客様に共有していただけるよう「ラッキーブランド」の確立に取り組んでまいります。お客様に当社の価値や想いを共有していただき、お客様との信頼関係及び共感を強固に築き上げて、企業価値の向上に努めてまいります。

当社はこうした数ある課題を着実に実施していくことにより、厳しい経営環境にある中、競争力のある企業、お客様から愛される企業の構築に向けて取り組んでまいり所存であります。

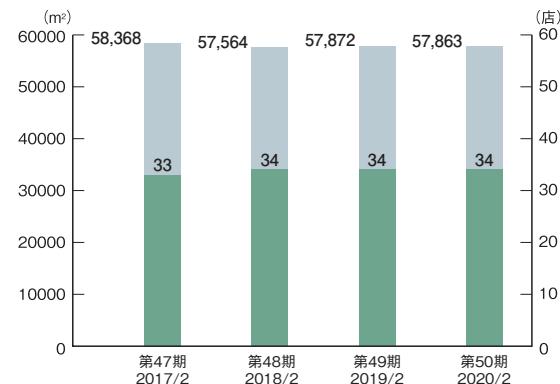
株主の皆様におかれましては、引続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次期の業績予想につきましては、投資計画として、2020年9月に「ラッキー新琴似四番通店」の改装を予定しておりますが、消費税増税や新型コロナウイルス感染症問題の影響による消費回復の不透明な状況及び競合激化の環境も考慮し、売上高393億40百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益4億12百万円（同3.0%増）、経常利益4億20百万円（同2.4%増）、当期純利益2億20百万円（同0.1%増）を見込んでおります。

■ 総資産の推移（第47期～第50期実績 4期分）
■ 純資産の推移（第47期～第50期実績 4期分）



■ 期中平均売場面積の推移
■ 期末店舗数の推移



財務諸表

●貸借対照表

単位:千円

科目	前期	当期
	2019年2月28日 現在	2020年2月29日 現在
〈資産の部〉		
流動資産	4,888,039	5,051,477
現金及び預金	1,747,766	1,924,762
売掛金	770,888	946,230
商品及び製品	1,703,074	1,546,676
原材料及び貯蔵品	65,647	66,807
前払費用	104,435	103,057
未収入金	439,735	446,424
その他	57,225	17,786
貸倒引当金	△734	△267
固定資産	14,068,354	13,854,982
有形固定資産	11,389,051	11,298,132
建物	3,663,266	3,664,494
構築物	137,928	129,067
機械及び装置	159	119
車輛運搬具	1,445	575
工具、器具及び備品	63,059	43,142
土地	7,222,022	7,222,022
リース資産	301,169	208,015
建設仮勘定	—	30,694
無形固定資産	107,309	93,538
ソフトウェア	89,080	74,353
ソフトウェア仮勘定	—	955
電話加入権	18,228	18,228
投資その他の資産	2,499,997	2,463,311
投資有価証券	220,579	182,332
繰延税金資産	455,961	448,529
差入保証金	1,787,326	1,727,089
その他	108,126	105,359
繰延資産	7,656	3,800
社債発行費	7,656	3,800
資産合計	18,964,050	18,910,261

単位:千円

科目	前期	当期
	2019年2月28日 現在	2020年2月29日 現在
〈負債の部〉		
流動負債	10,106,011	10,232,723
買掛金	2,503,655	3,042,035
1年内償還予定の社債	100,000	50,000
短期借入金	4,650,000	4,050,000
1年内返済予定の長期借入金	1,123,250	1,161,382
リース債務	189,235	137,219
未払金	351,835	590,240
未払費用	292,793	301,269
未払法人税等	73,376	100,040
未払消費税等	110,750	78,735
前受金	21,049	20,406
預り金	545,495	563,807
賞与引当金	112,950	105,994
ポイント引当金	31,619	31,591
固定負債	4,057,118	3,752,214
社債	650,000	600,000
長期借入金	1,816,799	1,625,291
リース債務	228,213	179,600
退職給付引当金	889,295	879,567
役員退職慰労引当金	108,946	—
長期預り保証金	300,441	293,039
資産除去債務	61,547	62,395
その他	1,876	112,320
負債合計	14,163,130	13,984,937
〈純資産の部〉		
株主資本	4,759,030	4,915,655
資本金	641,808	641,808
資本剰余金	351,215	351,215
利益剰余金	3,767,680	3,924,304
自己株式	△1,672	△1,672
評価・換算差額等	41,889	9,668
その他有価証券評価差額金	41,889	9,668
純資産合計	4,800,920	4,925,323
負債・純資産合計	18,964,050	18,910,261

● 損益計算書

単位:千円

科目	前期	当期
	2018年3月1日～ 2019年2月28日	2019年3月1日～ 2020年2月29日
売上高	41,132,677	39,935,114
売上原価	30,495,288	29,531,311
売上総利益	10,555,512	10,247,405
営業収入	1,157,697	1,131,275
営業総利益	11,713,210	11,378,680
販売費及び一般管理費	11,298,716	10,978,634
営業利益	414,493	400,046
営業外収益	75,070	52,886
営業外費用	50,854	42,578
経常利益	438,709	410,353
特別損失	258,369	74,626
税引前当期純利益	180,339	335,727
法人税、住民税及び事業税	75,067	105,443
法人税等調整額	△3,360	10,457
当期純利益	108,633	219,825

● 剰余金処分

期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類 金銭といたします。
 (2) 配当財産の割当に関する事項及びその総額
 普通株式 1株につき金50円 配当総額 63,201,500円
 (3) 剰余金の配当が効力を生じる日 2020年5月28日

(参考)

1. 当期における配当性向 28.8%
 2. 1株当たり配当金の推移(期末時)
- | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 10.0円 | 10.0円 | 10.0円 | 50.0円 | 50.0円 |

*当社は2018年9月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

● キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	当期
	2019年3月1日～2020年2月29日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,377,135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△95,929
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,104,209
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	176,996
現金及び現金同等物の期首残高	517,766
現金及び現金同等物の期末残高	694,762

● 株主資本等変動計算書

当期(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

単位:千円

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	其他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
		資本 準備金	其他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	其他利益剰余金 別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
2019年3月1日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	1,302,680	3,767,680	△1,672	4,759,030	41,889	41,889	4,800,920
当期変動額												
剰余金の配当						△63,201	△63,201		△63,201			△63,201
当期純利益						219,825	219,825		219,825			219,825
自己株式の取得												—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										△32,220	△32,220	△32,220
当期変動額合計	—	—	—	—	—	156,624	156,624	—	156,624	△32,220	△32,220	124,403
2020年2月29日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	1,459,304	3,924,304	△1,672	4,915,655	9,668	9,668	4,925,323

売上・設備の状況

●商品別売上高の推移と直近構成比の状況

○売上高の概要

当事業年度の売上高は、前事業年度と比較し2.9%減の399億35百万円となりました。

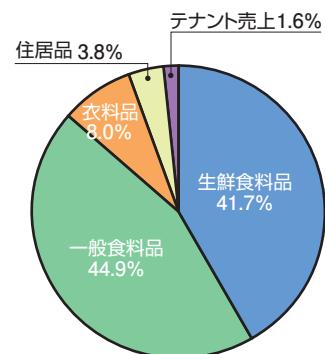
競合店対策や店舗活性化を目的としてミニ改装を含めると計3店舗の改装を実施し、強化部門である惣菜部門及びベーカリー部門では、中食需要に対応した品揃え強化により売上高確保に努めましたが、相場安による青果・精肉部門の売上不振、天候不順による衣料部門の季節物セールの不振に加えて、消費税増税及び年金・老後資金問題などの将来不安による消費節約意識の高まりもあり、売上高は前事業年度を下回りました。

商品別売上高

単位：百万円

	第48期		第49期		第50期		第51期(予想)	
	2018/2	2019/2	前期比(%)	2020/2	前期比(%)	2021/2	前期比(%)	
スーパーマーケット事業部門	41,711	41,132	98.6	39,935	97.1	39,340	98.5	
生鮮食料品	17,052	17,045	100.0	16,661	97.7	16,565	99.4	
一般食料品	18,575	18,321	98.6	17,921	97.8	17,577	98.1	
衣料品	3,905	3,579	91.7	3,213	89.8	3,111	96.8	
住居品	1,584	1,555	98.1	1,511	97.2	1,477	97.7	
テナント売上	593	630	106.3	626	99.3	610	97.4	
合計	41,711	41,132	98.6	39,935	97.1	39,340	98.5	

第50期(2020/2)売上構成比



●設備投資の概要

設備投資につきましては、当期におきましては、新設店舗及び閉鎖店舗は無く、改装店舗として2019年4月に「ラッキー西岡店」の改装を実施しております。なお、2020年2月小樽市銭函に外国人技能実習生用の「銭函宿舎」を新設しております。当期の設備投資の総額は、406,309千円です。

2020年2月29日現在の店舗数は34店舗であります。

設備投資の推移

単位：百万円

	第48期		第49期		第50期		第51期(予想)	
	2018/2	2019/2	前期比(%)	2020/2	前期比(%)	2021/2	前期比(%)	
投資金額合計	684	242	35.4	406	167.4	165	40.6	
新店投資	362	—	—	246	—	—	—	
既存店改装投資	94	63	67.4	59	94.6	57	96.5	
その他	227	179	78.8	100	55.9	107	107.0	
減価償却費	335	330	98.7	307	92.9	298	97.1	
リース償却費	267	217	81.0	136	62.8	94	69.0	

注 本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

●店舗の状況

(1) 開店・閉店店舗数と期末平均売場面積

	第 45 期 2015/2	第 46 期 2016/2	第 47 期 2017/2	第 48 期 2018/2	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2
開店						
店舗数	2	2	1	2	0	0
平均売場面積(㎡)	2,942	1,865	457	1,117	0	0
閉店						
店舗数	1	1	4	1	0	0
平均売場面積(㎡)	1,758	715	3,826	493	0	0
全店						
店舗数	35	36	33	34	34	34
期末売場面積(㎡)	59,521	60,617	57,133	57,511	57,868	57,827
期中平均売場面積(㎡)	60,240	60,337	58,368	57,564	57,872	57,863

(2) タイプ別店舗数と期末売場面積

	第 45 期 2015/2	第 46 期 2016/2	第 47 期 2017/2	第 48 期 2018/2	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2
衣料品単独店						
店舗数	10	9	8	7	7	7
期末売場面積(㎡)	7,028	6,313	5,404	4,911	4,911	4,911
食料品単独店						
店舗数	4	5	4	6	5	5
期末売場面積(㎡)	4,189	5,115	4,507	5,624	4,029	3,987
食料品・衣料品共同店						
店舗数	21	22	21	21	22	22
期末売場面積(㎡)	48,304	49,189	47,222	46,976	48,928	48,929

会社概要

(2020年5月27日現在)

設立	1982(昭和57)年5月10日	役員	代表取締役会長	川端 敏
本社	〒006-0851 札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号		代表取締役社長	桐生 宇優
資本金	6億4180万円		取締役常務執行役員	鶴澤 賢治 (管理本部長兼経理部長)
代表者	代表取締役社長 桐生 宇優		取締役執行役員	堀田 史朗 (新センター準備室長)
従業員数	正社員 480名 パートタイマー 1,320名 (1人8時間換算 月平均)		取締役執行役員	田中 寛密 (営業本部長)
営業品目	2020年2月末日現在 生鮮食料品・加工食品・菓子・衣料品・ 日用雑貨・米・酒		取締役	吉田 周史 (社外取締役)
			常勤監査役	黒田 寿隆
			監査役	堀 勝彦
			監査役	宮脇 憲二 (社外監査役)
			監査役	伊藤 光男 (社外監査役)
			執行役員	猿渡 浩一 (総務部長)
			執行役員	斎藤 礼二 (遠軽店長)
			執行役員	高橋 徹 (開発部長)

沿革

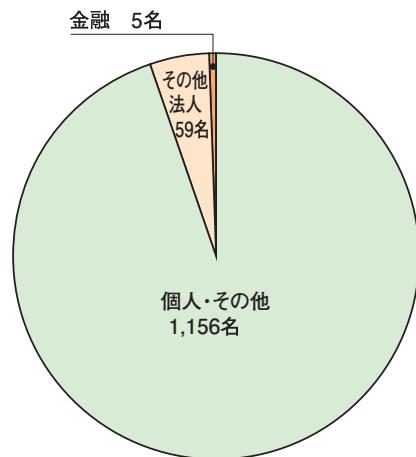
1971年 4月	食品の小売及び卸売を目的として、札幌市手稲西野(現 西区西野)に資本金6,000千円にて株式会社オレンジチェーンを設立。	2000年 3月	網走市駒場にシティあばしり店を開店。道東地区3店舗となる。同月、食品の安全性検査のため独自の商品検査室(現 安全衛生管理室)を設置。
1973年 4月	本社を札幌市西区山の手1条7丁目に移転。	2001年 3月	札幌市北区にラッキー新琴似四番通店を開店。
1974年 5月	商号を株式会社山の手ストアに変更し、本格的にスーパーマーケットのチェーン展開を開始。	2002年 3月	中川郡幕別町にラッキー衣料館礼内店を開店。
	同月、山の手店(現 ラッキー山の手店)をはじめ、5店舗の営業を開始。	2002年 4月	札幌市手稲区にラッキー星置駅前店を開店。
1975年 10月	札幌市東区に北49条店(現 ラッキー北49条店)を開店。以後、1982年5月までに札幌市内5店舗を開店。	2002年 10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1976年 10月	札幌市豊平区(現 清田区)に清田店を開店。	2003年 4月	夕張郡長沼町にラッキー長沼店を開店。
1977年 12月	EOS(補充発注システム)を導入。	2003年 9月	札幌市西区にラッキー発寒店を開店。
1982年 5月	株式会社まるせんと合併すると同時に北雄ラッキー株式会社に商号変更。資本金151,000千円。同時に本社を札幌市中央区大通西23丁目291-1に移転。	2004年 5月	精肉・鮮魚商品を店舗へ供給する生鮮センターを稼動。
1984年 6月	本社を札幌市中央区宮の森3条1丁目1-25に移転。	2004年 6月	紋別市清沼にシティもんべつ店を開店。道東地区4店舗となる。
	同月、保険部門を設け、損害保険の代理店業務へ進出。	2005年 10月	稚内市新光町にシティわっかない店を開店。道北地区へ進出。
1988年 7月	小樽市新光町にラッキー朝里店を開店。小樽市へ進出。	2006年 3月	青果物・水産物を店舗へ配送する低温センターを稼動。
1989年 7月	本社を札幌市中央区北11条西19丁目36-35に移転。	2007年 7月	小樽市手宮にラッキー衣料館手宮店を開店。
1990年 3月	POS(販売時点情報管理)システムを導入。	2008年 9月	岩内郡岩内町にラッキー岩内店を開店。
1991年 10月	石狩町(現 石狩市)花川にラッキー花川南店を開店。	2011年 11月	函館市人見町にラッキー衣料館ひとみ店を開店。
1993年 9月	株式会社シティびほろと合併し、シティびほろ店を開店。道東地区へ進出。	2012年 9月	函館市美原にラッキー衣料館美原店を開店。
1994年 3月	千歳市錦町にラッキー千歳錦町店を開店。千歳市へ進出。	2013年 6月	本社を札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号に移転。(ラッキー星置駅前店に併設)
1994年 4月	紋別郡遠軽町にシティえんがる店を開店。道東地区2店舗となる。	2014年 3月	虻田郡倶知安町にラッキー倶知安店を開店。
1996年 3月	本格的にインスタペーカーを手かけ、以後各店へ導入。	2015年 7月	常呂郡調子府町にシティマートくんねっぷ店を開店。
1998年 3月	夕張郡栗山町にラッキー栗山店を開店。	2015年 7月	岩見沢市幌向にラッキーマート幌向店を開店。
		2016年 4月	網走郡大空町にシティマートめまんべつ店を開店。
		2017年 10月	紋別郡湧別町にシティマートなかゆうべつ店を開店。

株式の状況 (2020年2月29日現在) 東証JASDAQ(スタンダード):2747

発行済株式の総数 **1,264,640株**

期末株主総数 **1,220名** (前期比 45名増)

●所有者別株主数

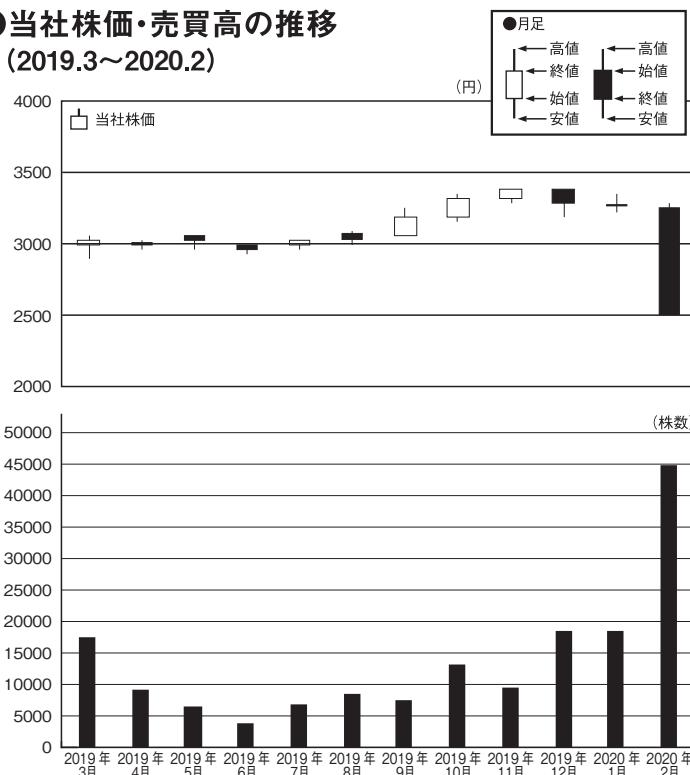


●大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
桐生興産株式会社	290,300	22.96
横山 清	70,000	5.53
株式会社北洋銀行	62,000	4.90
田中 寛密	60,000	4.74
堀 勝彦	48,000	3.79
有限会社まるせん商事	33,000	2.61
株式会社北海道銀行	30,000	2.37
千葉 サカエ	27,600	2.18
ノースパシフィック株式会社	27,000	2.13
株式会社桐生商店	22,400	1.77

(注)出資比率は自己株式(610株)を控除して計算しております。

●当社株価・売買高の推移 (2019.3~2020.2)



※2018年9月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、普通株式5株を1株とする株式併合を実施したことにより、発行済株式総数が1,264,640株となっております。

株主メモ

決算期日	2月末日
株主総会	毎年5月
基準日	2月末日 そのほか臨時に必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	剰余金の配当2月末日 中間配当を行う場合は8月31日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	電子公告により行います。
株主優待制度	株主優待制度として、毎年2月末日現在の100株以上ご保有の株主の皆様に対し、保有株式数に応じて以下のとおり株主優待贈呈品を年1回お届けいたします。

保有株式数	基準日	優待内容
100株以上200株未満	毎年2月末日	年1回、1,000円相当のJCBギフトカードを贈呈。
200株以上1,000株未満	毎年2月末日	年1回、5,000円相当のJCBギフトカードもしくは「北海道特産品」を贈呈。
1,000株以上	毎年2月末日	年1回、10,000円相当のJCBギフトカードもしくは「北海道特産品」を贈呈。

※2018年9月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

LUCKY

2020.2 第50期 報告書

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱できませんので ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご 注 意	支払明細発行については、右の「特別 口座の場合」の郵便物送付先・電話お 問い合わせ先・各種手続お取扱店を ご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以 外の株式売買はできません。証券会社等に口 座を開設し、株式の振替手続を行っていただ く必要があります。

本報告書で記述されている当社の現在の計画、戦略、業績予想並びに将来予測などは、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、経済情勢・市況環境等の様々な要因の変化により、実際の事業内容や業績は、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。従いまして、当社の業績や企業価値等をご検討される際に、これら見通しの上に全面的に依拠することは避けていただきますようお願い致します。

また、本報告書に記述するいかなる情報も、当社の株式等の購入や売却を勧誘したり、これらに対する投資をアドバイスする目的で作成されたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。